

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第30総会期主題
平和を実現する人々には幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
- (1) 非核・非暴力による平和を構築する
 - ・平和憲法をまもり、世界に広める
 - ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
 - ・女性と子どもの権利をまもる
 - ・パレスチナYWCAの活動を支援する
 - (2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 7 JUL.2010

発行所 日本YWCA
〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03・3264・0661
【駿河台オフィス】
〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館302号室
Tel. 03・3292・6121 / FAX 03・3292・6122
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 俣野尚子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp

NPT再検討会議は終わった 今何をすべきか

5年に一度開催されるNPT(核拡散防止条約)再検討会議が、この5月ニューヨークで開催されました。

(財)広島平和文化センター理事長
ステイブ・ブリン・リーパー



NPT(核拡散防止条約)締約国が、2010年の条約の再検討を終えました。世論を高め、前向きな結果が出るよう働きかけをしてくださったYWCAには感謝しています。YWCAはもとより、YMCA、全国の生協、Yes!キャンペーン実行委員会は、平和市長会議のキャンペーンに絶大なご支援をいただきました。紙面を借りて心から感謝いたします。

再検討会議で日本は中心的な役割を演じましたが、役割を担ったのは政府ではなく被爆者をはじめとした市民でした。NGOコミュニティは、再検討会議のバクトラン議長に、核兵器廃絶を求めると1500万筆の署名を提出しています。この驚くべき数字は、核兵器廃絶に対する草の根の切実な願いの表れであり、これらの署名の大半は日本で集められたものです。その他の地域で集められた署名も、日本の署名運動がきっかけなのです。

100人近い被爆者を含めた2000人から3000人の日本人が、はるばる海を越えてニューヨークに結集したと報道されています。NPTに関しては、米国は別にして、日本はほとんどの参加者があつた国は他にありません。再検討会議に先立って、5月1日と2日に大きな会議、行進や集会が開催され、さまざまな国から集まった1万から2万人の参加者は、日本人の行動に多くを学んだと思います。日本人がいなければ、これらのイベントは実現しなかったことでしょう。世界の核兵器との闘いは日本人が主導しているといっている人はいません。

平和市長会議、世界のNGO、多くの日本人が力を合わせて外交官たちに大きなプレッシャーを与えています。その結果、第一委員会(核軍縮)の出した最初の合意文書草案は、驚くほど強い表現になっています。それは、核兵器のない世界へとつながる交渉プロセスの即時開始を求め、核兵器のない世界の現実に反するすべての活動の即時停止を求めるものでした。2020年までの核兵器廃絶は表現されませんでした。

2020年までの核兵器廃絶は表現されませんでした。

だが、このプロセスの緊急性を繰り返し述べ、期限の設定が望ましいと述べています。さらに、2014年に全世界で核兵器禁止条約を実現する交渉に入るべく、核兵器国に2011年に交渉を開始することを求めています。これは、これまでの被爆者の取り組みの成果であり、さらに、ヒロシマ・ナガサキ議定書を意識しているように思えます。また、日本政府の福山外務副大臣も演説の中で議定書について触れています。私は、議定書を推進する日本での強力なキャンペーンが功を奏したと確信しています。重ねて、皆さんのご支援に感謝します。

今回の会議でまとめられた最終文書の意味は大きいと思います。最終文書を出すことができたのは、潘基文国連事務総長のリーダーシップや世界のリーダーたちの協力精神によるものです。最終文書は、世界の国は不拡散体制を強化し、核兵器を廃絶することへの決意を再確認したと明確に述べています。完全軍縮に向けた世界的な協力への大きな一歩が踏み出されたのです。

他方で、核兵器国は草案に猛反発し、(1)核兵器のない世界につながる包括的プロセスを実施する約束、(2)核兵器禁止条約や早期の交渉開始、(3)核に関する行動の停止、(4)期限の言及などの削除を求めました。

残念ながら、この結果から多くの人が出した結論は、核兵器国は、核兵器を廃絶することを本気で考えていないということです。核兵器のない世界を追求しているかのように装い、本心では核の独占を守り続けようとしているのではないかと感じています。

非核兵器国が再検討会議からこのメッセージを受け取ったとするなら、一部には自らの核兵器を取得し、実験し、配備する準備を始める国も出てくるかもしれません。例えば、このままイスラエルの核保有が認められるのであれば、アラブ諸国は、保有を求める国民の声をどこまで抑えることができるのでしょうか？

この動きを抑えるためにも、私たちは今回の再検討会議の最終文書にステップにして、都市や市民がキャンペーンを拡大し、働きかけを強化しなければなりません。政府が核兵器のない世界を実現できるように、世界的な気運をさらに大きく醸成していくのです。皆さんの助けがあれば、平和市長会議と加盟4000都市を中心として、これが実現できると思います。

広島市と平和市長会議は、7月28日と29日に広島で国際会議「2020核廃絶広島会議」を開催します。この会議で、グローバルな大きなうねりとなる新たなキャンペーンの発表ができることを目指しています。どうか会議に参加されるなど、ご協力をお願いします。

最後になりますが、地雷禁止キャンペーンの成功には、ダイアナ皇太子妃の存在が欠かせません。メディアを通してキャンペーンのメッセージを送り、資金獲得の後押しをしたからです。核兵器廃絶キャンペーンは、積極的に広報活動をする必要があります。しかし、今のところ、その資金が十分ではないのです。十分な資金が確保でき、広報を活発化すれば、核兵器廃絶も夢ではありません。核兵器廃絶を実現するために必要な資金集めにもご協力くださるようお願いいたします。ご協力の方法については、左記のウェブサイトでご覧いただくことができます。よろしくお願いたします。
www.mayorsforpeace.org

2010年度加盟YWCA
中央委員会報告 3面掲載

日本YWCA

駿河台オフィスに移転しました。

新住所: 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11

東京YWCA会館302号室
電話: 03-3292-6121

FAX: 03-3292-6122

貧困のない社会から 平和へ

武井多佳子

昨年07年の日本の貧困率は15・7%、ひとり家庭の貧困率は54・3%。子どもの貧困率は14・2%という「相対的貧困率」が示されて、格差・貧困の実態が次々と明らかになった。

子どもの貧困は本紙3月号でも取り上げられたが、私の住む松山市でも就学援助を受ける子どもや奨学金を返せない子どもが増加している。6月から子ども手当がスタートするが、まだ不透明である。

4月25日、「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワークが立ち上がったことは心強く思う。

先日、2人の子どもの育てながら仕事を探そうというシングルマザーの知人が、何度面接を受けても採用されず、就職の難しさを痛感したと打ち明けてくれた。彼女のように経済的に自立したいと努力と苦勞を重ねる女性はたくさんいる。それでも働く女性の約8割は非正規労働という現状がある。女性はずっと貧困と背中合わせで生きている。そして、それは子どもも貧困へとつながっているのが今の私たちの社会である。

子どもや女性の貧困の先に、いったい何が待ち受けているのだろうか。

数年前「ひとり親家庭の教育費」という学習会での「お金のからない教育方法に『自衛隊』という選択肢がある」という発言が忘れられない。アメリカのように、貧困で若者たちを戦場に送り出す国にはいけない。今や「日の丸・君が代」に固執する教育は、それを駆り立てる手段にも映る。徐々にその姿が浮き彫りになりつつあると思うのは私だけだろうか。

平和な社会を実現するために、総合的な格差・貧困対策の必要に迫られている。子どもと女性の権利を守ることを掲げるYWCAとしても、しっかりと向き合っていくべき時だと思う。

多種多様な立場に置かれている女性たちが手をつなぎにくい時代であるが、分断されないよう、真実を見つめて歩みたい。(松山YWCA会員)

被爆者の声を世界に!

NPT再検討会議等に出席して



2005年に引き続き、今年5月にもニューヨーク国連本部で行われたNPT(核拡散防止条約)再検討会議やNGO主催の集会や行進に参加した。

5月2日のタイムズスクエアでのNGO集会では、主な国際NGO代表が次々に登壇し核廃絶への熱い思いを語った。引き続き行われた国連ビル前への大行進には2万人が参加。私は長崎の被爆者、下平作江さんの椅子を押して大集団の最前列を

歩き、その後には大横断幕と平和の火、NGO代表の団が結ばれた。被爆者が市民と共に世界のNGOリーダーを先導して平和へ向かっていることを象徴しているようで、身の引き締まる思いだった。行進の後、下平さんは壇上で被爆体験と核廃絶の願いを切々と訴え、私はそれを通訳するという大役を果たした。被爆者のはとばする熱意が、聴衆の心の中の「核廃絶の炎」を更に燃え上がらせるのを感じた。

5月3日には約1カ月に及ぶNPT再検討会議が、国連本部で各国外務大臣級の閣僚を迎えて始まった。午前中にはイランのアフマディネジャド大統領が核保有国を非難しながら自国の核開発は平和目的だと主張し、午後はアメリカのヒラリー・クリントン国務長官がそれに反論しながら、核開発の透明さを主張するという山場があった。この日私が傍聴した15人の各国代表の意見には、中東非核地帯・核開発の透明性・核平和利用に関するものが目立った。この場で被爆体験が話されたら、その後の議論が進展しただろう。



被爆者の存在は非常に大きい。同行した被爆者は、84歳から66歳までの9人。当時のことを記憶している4人が高校でも体験を話し、米国の若者に核廃絶を訴え共感を得た。被爆者がお元気なうちに海外に足を運んでもらい、生の声を聞いてもらおうのが一番の核廃絶への道だと痛感した。

前川智子(核廃絶地球市民長崎集会実行委員/大学講師)

ビリョクでもムリョクではない!



今年も市民でつくる「第22回ながさき平和大集会」が6月に開催された。

1998年5月、インド・パキスタンの核実験が行われ、この集会に参加する長崎の平和団体が、この危機に被爆地長崎の願いを伝えるために「高校生平和大使」をニューヨークの国連

本部に派遣した。以後、スイス・ジュネーブの国連欧州本部に「核兵器廃絶と平和な世界実現」を訴え続けて今年で13回目となり、世界YWCAへの訪問も継続されてきた。

さて、オバマ大統領のプラハ演説から1年、「ノーモア・ナガサキ」の被爆地としては、核廃絶の閉塞感の中にもささやかな希望の光を見出し活動をしてきた。5月開催の核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて、「平和市長会議」が09年7月に長崎市で開催された。これは、原爆による悲劇を二度と繰り返さないとの信念のもとに、広島市・長崎市が中心となって1982年に設立された。核兵器廃絶をめざす具体的な行動指針「2020ビジョンキャンペーン」(核兵器廃絶のための緊急行動)を策定し、世界の都市・市民・NGOなどの連携を図りながら、2020年までの核兵器廃絶に向けたさまざまな取り組みが展開されている。

また、「長崎を最後の被爆地

永田町にロビイングに行ってきました!

中央委員会前日の5月21日(金)、「憲法改正国民投票法」の永久凍結・廃止の訴えと共に9条を平和外交の礎として世界に広めていくことを提案する要望書を持って、ロビイングに行ってきました。要望書には地域YWCAから届けられた、9条を守る活動の紹介と、憲法を守る要望の声も入り準備万端! 京都・甲府・東京・名古屋・新潟・横浜の各地域YWCA参加者と共に、ちよつとドキドキ

に」と第4回「核兵器廃絶」地球市民集会ナガサキ」が2010年2月に開催され、被爆者の声を聞き、核兵器のない世界を達成しようとの決意を新たにしました。特に、核兵器をめぐる米国の流れが動いた好機を逃さず、5月のNPT再検討会議を前にして、被爆地から力強いメッセージを発信したいと、国内外のNGO・被爆者・市民の思いが結集された集会となった。

唯一の被爆国である日本の指導者たちは、核兵器廃絶の実現を世界の政治指導者へ強力に訴える特別の役割があることを忘れてはならない。

被爆地長崎は、被爆65年目の声を若い世代に託して、今年も「高校生平和大使」をジュネーブの国連欧州本部へ派遣する。「ビリョクでもムリョクではない!」を合い言葉にして。

長崎YWCA会長 熊江雅子



「核廃絶」にYES!

2010年は被爆65年と韓国併合100年の年になります。NPT再検討会議も開かれました。

昨年の日本YWCAの「ひろしまを考える旅」における基調講演で、広島平和文化センター理事長のステイブ・ン・リーパーさんが、「今は第三次世界大戦の前夜ですよ。今、行動しなければチャンスが失ってしまいます」と話されました。大変わかりやすい的をついた言葉でした。誰にでもわかるようなヒロシマからの発信が大切なのだと思いました。

広島YWCAは、2008年度から、財政破綻し中学生広島派遣事業」が中止となった夕張市内の3つの中学校から1人ずつ3人の生徒さんと先生を招待して共にヒロシマの学習をします。日本中から募金が集まりました。感謝です。今年から夕張中学校からのみになりましたが、3人の生徒さんを招待します。

広島YWCAは、夕張からの中学生受け入れを通して、実際には夕張の中学生によって私たちが励まされています。今年も広島YWCAのサークルが碑めぐりを担当して、中学生に合ったような碑めぐりを提供しようと考えています。昨年に続き朗

読グループ「夾竹桃」による被爆体験者の手記も上演されます。

中国電力は、隣の山口県の上関に原発を建設する計画を進めています。米軍の岩国基地の近くですよ! 皆さんは基地と原発がかなりの近い距離に存在することをどう思われますか?

去る1月には「上関原発を止めよう!ヒロシマ」を発足し阻止行動もしました。また3月には原発の72時間のハンガーストライキを行った青年を広島YWCAは応援しました。多くの新聞社が報道する中、地元の中新聞はこのことをまったく報道していません。被爆の記事は

良いけれど「原発」はまずいのでしょうか? 科学の知識がない私の単純な疑問です。小学校4年生の社会科の教科書に東海村の原子炉の写真が掲載されています。原子爆弾の「原子」と原子炉の「原子」は同じではないのですか?

私は、ヒロシマの地に住む者として、65年前の苦しく悲しい経験を繰り返したくないためにあらゆる「核」をNO!と否定していきたいのです。そして2020年までの「核兵器廃絶」にYES!と大きな声で訴えたいと思います。

広島YWCA会長 難波郁江

2010年度 加盟YWCA中央委員会報告



日本YWCA第30総会期第1回加盟YWCA中央委員会が5月22日～23日に、出席47名、陪席17名の参加で開催された。

議事I 前回記録の承認の後、侯野尚子会長による基調報告では、昨秋の全国会員総会での協議を受けて今総会期で以下4つの事業を行うことが提案され承認された。①ビジョン2015

推進事業②地域YWCA支援事業③青少年事業④広報&ファン

ドレijing事業。各事業は委員会を組織し、全国運動として展開する。各委員会の職責・総

会期の方針・2010年度の目標が各委員長より提案された。

続いて2009年度決算報告・監査報告が承認された後、理事

会・評議員会の報告の中で、日本YWCA事務所四谷分室の東

京YWCA会館302号室への移転について、鈴木伶子理事長から経過説明を含めて報告された。

協議は、YWCAを元気にする方法として次のI～VIが提案され活発な意見交換が行われた。

I YWCAの組織運営力を高めよう！「適切な組織運営と説明責任の基準」 II 互いのタレントを用いよう！「YWCA人材リスト」 III 出会う、語って、

学んで、行動しよう！「全国会員集会」 IV 若い会員を増やそう！「インターン制度」 V ビ

ジョン2015を展開しよう！「9 Girls Rock」

広めよう！「憲法の大切さ」 VI 活動をアピールして寄付を得よう！「広報&ファンドレijing」

本YWCA事務所四谷分室の東

「あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」 (ガラテヤの信徒への手紙3章26節～28節)



私は、生まれてから牧師という仕事に就くまで、女性であることで差別を受けたり、そのことでのいやな思いをしたことが一度もありませんでした。それは、アジアやアフリカの多くの国々の友と話す時、信じられないといわれるような状況でした。恵まれていたと思

初めて「これは差別じゃないの？」と思ったことは、当時教会に来ていた外国籍の方々の文化によるものでした。女性の牧師など認めないとか、結婚式をお願いしたくないとか、聖餐式や、礼拝の最後の祝福もさせてもらえませんでした。とても悲しい気持ちになりました。でも、その教会で10年以上働いて、文化からくる、彼らが抱く違和感は解消され、たくさん用いられるようになり本当に感謝しています。

人は、クリスチャンになっても自分の考え方や、培ってきた習慣や価値観に縛られていて、それを改めて感じた経験です。しかし、彼らに責め論することではなく、私自身が御言葉によって心の平安をいただくことをまず大事にすることで、無視されていた時期を乗り越えることができました。その御言葉が、今回選んだ聖書の箇所です。主に愛され、招かれた自分に誇りをもって現場に立ち続ける希望と力をいただきました。

石塚多美子 (日本バプテスト同盟大島新生教会牧師)

「YWCA人材リスト」への 推薦のお願い

日本YWCA地域YWCA支援委員会では、第30回全国会員総会での意見を受け、地域YWCAの活性化のために、さまざまなタレントを持つYWCA会員のご紹介リストを作成します。リストに掲載された方には、地域YWCAに出向き、ワークショップや講演・学習会などをしていただきます。つきましては、このリストに掲載するYWCA会員・会友の方をご推薦下さい。自薦・他薦を問いません。

- **目的**：互いのタレントを生かして、地域YWCAが活用できる人材リストを整え、地域YWCAの活性化をはかる。
- **リスト掲載者**：YWCA会員・会友、交通費（必要な場合は宿泊費）のみで引き受けてくださる方
- **派遣先**：地域YWCA
- **第1次推薦締切**：2010年8月末日
- **推薦に際しては**、ご本人に以下の確認事項を伝え、了承を得た上で、所定の推薦書にご記入の上、推薦下さいますようお願いいたします。自薦も大歓迎です！（推薦書は各YWCAにお送りしています。地域YWCAあるいは日本YWCAへお問い合わせください。）

【確認事項】

- ① 交通費・宿泊費のみで引き受けてくださる会員・会友。
- ② 派遣に伴う交通費・宿泊費は、招へい地域YWCA負担。
- ③ リスト掲載者の連絡先は、日本YWCA事務局の管理とし、講師派遣の問い合わせのあった地域YWCAにのみ、連絡先を知らせる。
- ④ その後の交渉は、地域YWCAと講師・ファシリテーターの直接交渉とする。
- ⑤ 交渉が成立し、プログラムの日程が決まったら、地域YWCAより日本YWCAへ知らせる。
- ⑥ プログラム実施後に、地域YWCAおよび講師・ファシリテーター両者とも、報告書（フォームあり）を日本YWCAへ提出する。

「YWCA人材リスト」は冊子にして、2010年10月初旬に地域YWCAにお送りする予定です。

〈問合せ・連絡先〉日本YWCA地域YWCA支援委員会
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11
東京YWCA会館 302号室
電話：03-3292-6121
Fax：03-3292-6122
e-mail: office-japan@ywca.or.jp

協議VII では、来年スイスで開催される世界YWCA総会の代議員・オブザーバーの推薦状況の報告、世界YWCAに関連する募金についての説明、日本YWCA加盟費の地域YWCAからの申し出額の報告があった。

議事II

(一) 前記の協議の中で結論が出なかった事項につき運営委員会で協議し、以下2項目が再度提案され承認された。

① 全国会員集会について2011

1年秋に1泊2日で開催する

② 人材リスト・謝礼は無料とする

・リストアップの対象としてはYWCAの会員/会友に限

定する・リストは紙媒体とする

(二) (議事I) 中での編集委員会報告を受けて、日本YWCA

機関紙を、2011年4月より

以下のようにリニューアルする

(三) 第30総会期及び2010

年度事業計画案、承認

(四) (財)日本YWCA2010

年度予算の報告

(五) 日本YWCA会長・副会

長・中央委員選出規程改正案の承認

(六) 学校YWCA規程案の承認、と議事が進み、来年度の中央委員会日程(2011年5月

21日～22日)を確認し、2日間

にわたる中央委員会を終了した。

真摯に協議した事柄が各地域

YWCAで花開き、実を結ぶこ

とを期待したい。

書記役員 手島千景



9 Girls Rock!

しながら参議院議員会館の中へ。ある沖繩の議員秘書は、突然の訪問にもかかわらず、沖繩の現状や思いを詳しく語ってくれました。

この経験から、ロビイングは難しいことではなくすぐに行動でき、この行動こそが大切なこ

と。そして、YWCAは共に行動できる豊かな人材が豊富なことを学びました。ぜひあなたも近くのシニアやユースの仲間と一緒に行動し、声を議員に届けて下さい！

運営委員 木村真理子



©日本YWCA



京都 YWCA

親子のプレ・キンダーガーデンから

京都YWCAのシリーズ「子どもが楽しみ、親が学ぶひととき」の第一弾として取り組んだ「親子のリズムあそび」は、1997年から始まった地域子育て支援事業として、13年にわたり多くの親子を対象にプログラムを継続してきました。また、リズムあそびの参加者を中心となつて「親子ライブラリー」や「言葉や発達に心配のある親の談話室」を開き、地域の社会活動を行ってきた経緯もあります。

京都YWCAでは、これまで「親と子のリズムあそび」は、0歳から3歳までの親子が通う「親子のプレ・キンダーガーデン」から始めました。「リズムあそび」や「絵本」「造形」などのプログラムを平日に行います（週1回から参加が可能です）。昼食には地産の無農薬有機栽培の玄米や7分つき米と旬の野菜を使ったおつゆを作り、「会食」する時間を共に持つことで、仲間との「共感する力」を育てることに力をつけています。

前近代型社会では、祖父父母の下で子育てを行い「親となる力」を育みました。その外側を地域共同体が包み、家族・家庭を守り育ててきました。現代社会が失ったこの役割に代わるものが「子育て支援」に求められる機能でしょう。親の生涯教育的な視点に立った「子育て支援」が現代社会には必要理由です。しかし、現在の親世代は「サービス産業」全盛期に幼児期や青年期を過ごしています。サービスを提供する側、サービスを受取る側という関係性ではない「新たな関係性」をつくり、親が主体的な姿勢で子どもの育成にかかわり、自分の子どもだけでなく、他者の子どもにも目を向け、地域住人の一人として育つことを「こころから」では大事にしていきたいと考えています。

京都YWCA職員 斎藤佳津子

米軍普天間基地の即時閉鎖・返還を求める

2010年6月2日 沖縄YWCA

古くなり使い勝手の悪い「普天間基地」を「地元の負担軽減」のためと、名護市辺野古キャンプ・シュワブ沿岸に軍港付きの機能強化した新基地を造って移設させようとしている日米政府の目論見は、断じて許されるものではありません。

元アメリカの国防長官ラムズフェルド氏は、市街地のど真ん中にある米軍普天間基地を「世界一危険な基地」と言い、また「米軍は歓迎されない所には行かない」とも言っていました。そして、総理大臣鳩山氏は、選挙前も選挙後も沖縄に来て、普天間基地の代替地は「最低でも県外」と言いました。

ところが、それらの言葉は「米軍による抑止力」の必要性がわかったというだけで、検討過程・内実も明らかにしないまま反故にされました。これは、基地の「県内移設」に反対している沖縄県民の思いを無視するものです。沖縄県議会での全党一致の移設反対決議、また、辺野古に新基地を造らせないことを公約した人が当選した名護市長選挙の結果を踏みにじることです。

米国は自由と民主主義を守り、拡大すると言いつつ、自ら「民主主義」を破壊しています。そのような米軍の存在が、中国や北朝鮮からの脅威に対する「抑止力」なるとする考え方は冷戦時代のものでしょう。要するに、いつも「仮想敵国」をつくって軍事力に頼り、米国が沖縄をいつまでも米軍の使い勝手のよい基地として使うのは、日本の「思いやり予算」があるからであり、また、「軍産共同体」の米国経済のため、米国の多国籍企業保護のためです。

日本がいつまでも米国の要請や脅しに屈していたのでは、世界に誇れる「日本国憲法第九条」による世界平和を築くことはできません。この「憲法九条」こそ、真の「抑止力」となり得るものです。38年前、沖縄は米軍支配下から日本に復帰しました。復帰の切実な願いは「日本国憲法」適用下での基地縮小、そして返還でした。

日本の国土の0.6%の土地の沖縄に、在日米軍（専有）基地の75%近くを置くこと自体沖縄への構造的差別です。日本の人口の僅か1%の沖縄に米軍基地を押し付け続けることを見ても振りをして「本土」の人たちは、それが、まさに自分たちの問題であることに気づくべきです。「沖縄は大変ね」ではなく、真の共感・連帯を私たちは求めています。

沖縄は今、かつて米軍の土地取り上げに抵抗した「島ぐるみ闘争」の様相を呈してきています。怒りのマグマが渦巻いています。圧倒的な力をもつ政府に、断念を迫るために、力を合わせていきましょう。

日米安保体制の根本的な検討が、全国的な規模で行われる契機となることを願います。そして、沖縄がもうこれ以上、軍事利用され続けられないこと、沖縄から、日本から、世界中から「人殺し」の基地がなくなることを願います。

中高YWCA夏のカンファレンス

—地域YWCAと連携して準備中！

現在、女子校・共学校含めて35校の中高YWCAが活動し、名称もYWCA・YCA・YMCA・YWCA・ひまわり部・ボランティアサービスマスター等さまざまですが、性別を超えて女性たちが直面する課題を知り、取り組むことの大切さも教えられています。会員は総勢で約500名。夏休みには、地区ごとにカンファレンスを開催し、礼拝・フィールドワーク・聖書研究・研究発表・講演などを通してさまざまな出会いを経験しています。

今夏は、東北・北海道地区は7月29日～31日、「福祉」しゅうがいつて何だろう？というテーマで山形学院が担当し、山形市総合福祉センターに集まります。福島YWCAが昨年の書道展に展示した、ダウン症児を交えた生徒たちの作品を会場に飾り、書道展取り組みまでの、特に障がいを持つ子どもと保護者の方の思いを分かち合うワークショップを行う予定です。関東地区は8月2日～4日、平和のメインエッセンスの思いを実現するために、日本でのYWCA活動が始められた原点である東京YWCAを会場として、「平和を実現する人々」は幸いである。をテーマに、横浜共立学園とフェリス女学院が担当し、靖国神社・女たちの戦争と平和資料館などを見学します。関西地区は8月2日～4日、「生命のメッセージ」自分を本当に大切にすることというテーマとして、同志社女子中高が担当し、同志社びわこリトリートセンターにて、京都YWCA会員のマーサ・メンセン・デイックさんのワークショップ等を行います。京都YWCA会員で日本YWCAの若手運営委員2名も派遣します。

この夏、地域と中高YWCAが手を携えて、さまざまな課題に自らが立ち上がり、解決しようとしています。よき活動が営まれますようにお祈りください。

運営委員 杉村みどり



『アンネ・フランク その15年の生涯』

黒川万千代著
合同出版発行
1500円＋税

本の紹介

「アンネの日記」は、世界中の多くの人が一度は読んだ本ではないだろうか。アンネと同時期に生まれ、広島島の原爆を体験した著者は、アンネ・フランクの15年の生涯を、アンネを取り巻く人々、オランダの市民の反ナチス抵抗運動、そして著者が体験した当時の日本の状況とを織り交ぜ、複眼的な視点でいねいにたどった。収容所の最悪の状況下でのアンネの死と、戦争によって強制された死を「清く、美しい」と言う傾向に警鐘を鳴らす著者。

「どんなに悲しくても、どんなにつらくとも、戦争による死を美化してはならない」。アンネと著者から私たちが学ぶべきものは多い。(M・K)

【協力ありがとうございます】
石川松子 佐竹美美子 野田澄子
平和教育資金 内山佳子
国際協力基金
（ラマ）YWCA洪水被災者支援
大阪YWCA
（ハイチ）大地震被災者支援
東京YWCA 名古屋YWCA
世界YWCA変革への力基金
福島YWCA
事業支援寄付（一般寄付を名称変更）
月館美和子 石川松子 小川知子
浅原由美子 石井摩耶子 匿名
（2010年5月20日現在 敬称略）

【あろがき】 ▼技術の進歩により、核兵器を容易に手にすることができるようになった▼今回のNPT会議で合意の文書採択にまで至ったことは、「核なき世界」の実現に向けての一步▼核拡散・核テロを防ぐために、建設的・理性的な更なる取り組みが求められる▼米国の核の傘に守られる私たちにも▼間近に迫った7・11参院選に思いを込めて参加したい。(M・R)